



見守る曽根先生



剣道形では、先ず構えからという指導でした。

八相の構えが微妙ですが、よく出来ている方もいらっしゃいます。

休憩中の垂れの置き方が日本ではあまり見られない光景でした。



左の胴胸が妙に長く、気になりました。この選手の身長は、2m 超えです。



木刀の鍔が見慣れない形でした。(ゴム製)



午後は2時からの稽古でしたが、剣道形の補習等に費やし、みんなジェスチャーを交え一生懸命に指導。(言葉が通じない事が、こんなにももどかしいと思ったのは私だけでしょうか?)

一日の終わりは、夕食時の美味しいビールやワイン!これで翌日の朝稽古が頑張れます。



参加メンバーとの記念写真

延べ3日、通算7回の合宿を無事終わることが出来ました。

最終日、湯村会長より一言。

『稽古を継続できない環境の人は、1日休めば遅れを取り戻すのに3日かかります。せめて素振りだけでも継続して下さい。』

我々にも頷けるお言葉でした。

9月19日

グラーツ〜ウィーン(最終目的地)

約2時間のバス移動ですが、ハイウェイを通らず田舎道を通って世界遺産ノイジトラー湖までドライブ。



カッコいいバスでした。



シーズンオフで人影はまばら。



琵琶湖の様な広さでヨットが多かったです。

ウィーン到着前に、音楽家ハイドンの街アイゼンシュタットのエステルハージー城を見学。

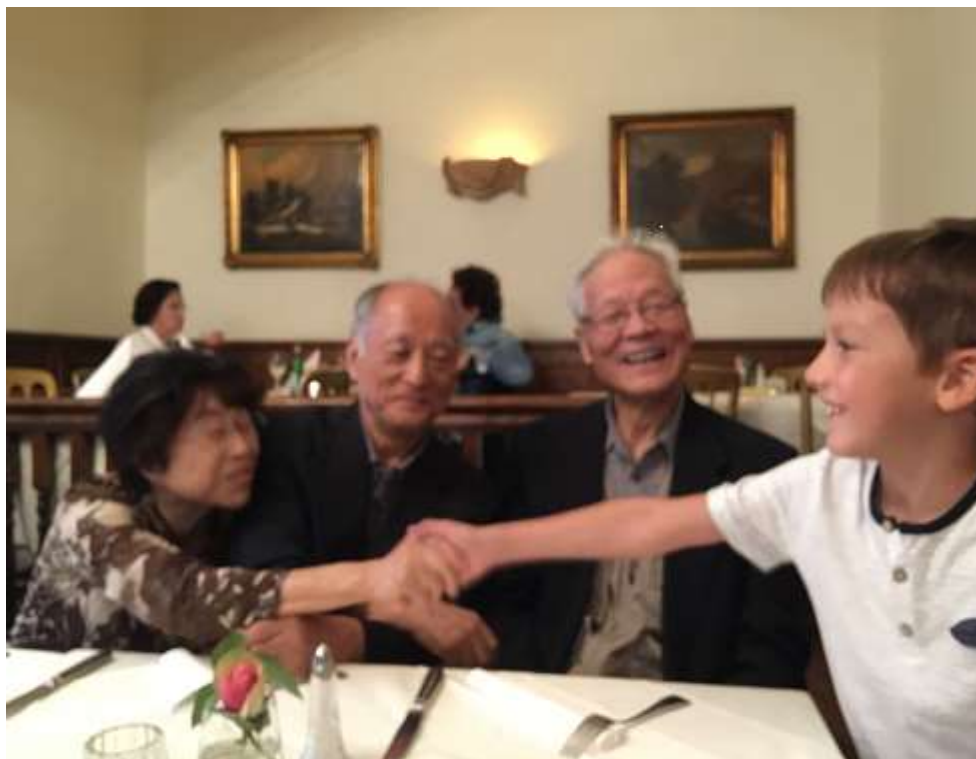


庭園で記念撮影

少々早い到着の為、シェーンブルーン宮殿を観光。

宮殿内観光と、トロツコ電車で外周観光の2グループに分かれてゆっくりと過ごしました。

夜は大人数で中々予約が取れず、結局ウイーン剣道クラブの会長・ゲオルグ・ロスさん紹介のイタリアンレストランでの夕食でした。(お店は、ロスさんお住まいの1階でした。)



右は、ロス会長のご長男のセバスチャン君、ウィーンの豆剣士です。

9月20日

自由行動の日で、市内観光とチェコ・ミクロフ(Mikulov)への観光グループに分かれて最後の観光を楽しみました。

ミクロフは、オーストリアとチェコの国境付近で、「チェコ人旅(5)穴場発見！ミクロフ」、「モラヴィアの宝石ミクロフと奇跡のワイン」「おとぎ話から出てきたような町ミクロフの魅力に触れる」などの旅行者のブログで紹介されていました。

ロス会長は、ここなら片道1時間半くらいの時間だし、ゆったりと観光できると推奨してくれていました。

地元ガイドも初めてというミクロフでしたが、とても素敵な街でした。

元々栄えていた街でありながら、鉄道普及時に路線から取り残されてしまった事で人々の出入りが減っていったそうです。



NAVSTEVNI RAD 公園



ミクロフ中心地のお城



街の広場で記念撮影